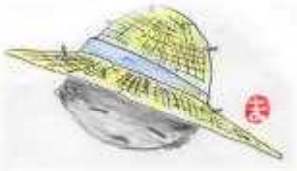
詩画集

酔生夢詩



山上村人

詩画集　酔生夢詩

もくじ

酔生夢詩　4
冬の花　6
神との商談と結末　8
夢の中で　10
これでよかった　12
忘れもの　14
自分　16
果て　18
言葉　20
苛めは楽しい　22
カーテン・コール　24
私の御先祖様　26
醜い自然もある　28
定番刑事モノ　30
モコ　32
それだけでいい　34

草葉の露

在るか無いか　36
時は今だけ　38
心の世界　40
ふふふふ　42
気配　44

「読売歌壇」より個人的好みにて自選
自作自選短歌
川柳自選
追補

酔生夢詩（すいせいむし）　※

暗くなると酒を飲む習慣があります
昼間でも休日は酒を飲むことがあります
ガンの宣告を受けた事があります
怖い顔をした医師がいいました「幸い今回は… ルル
…退院したら、キッパリと止めることを約束できますか」
「はあ… 」私は小さな声で呟きました
退院後ささやかな酒宴の席がありました
私はすぐ酒を飲みました
それから、ずうっーと飲み続けています（千日以上！）
私は日々ほろ酔い気分で生きています
酒の種類は問いません。日本酒でも、焼酎でも、ビールでも
お酒は一人でも差し支えありませんが
お酒にはおつまみが要ります
一番いいおつまみは気の合う人と共にいることです
酔うと機嫌（きげん）が良くなります
酔うと饒舌（じょうぜつ）になります
酔うと楽しい事が思い出されます
酔うと明日がバラ色に見えてきます

酔うと何もない空間に花が咲いてくる
酔うと笑いたくなります
酔うと自分が誰か分らなくなります
酔うと傷みが薄らぎます
酔うと眠くなります
最近些細(ささい)なことに酔うことができるようになりました
日々逢っている人との会話
久しぶりに出逢った人との会話
書物で出逢った人との会話
良い音楽を聞いた時
道端の草花との会話
飛来した野鳥との瞬時の出会い
飛んできた一匹の虫との会話
ある日の夕焼け雲との会話
一番星との会話

冬の花

蝶も蜂もいないのに
咲いている花がある
一つでも充分に美しいのに
数え切れない寒椿（かんつばき）の花の数
夕闇（ゆうやみ）に浮かんでいる白い山茶花（さざんか）

人道から離れて咲いているのは
蝶や蜂のためでも無ければ
人に見せるためではない
小鳥のためである

願い事もしないで
鳥の糞を洗い落とし
お地蔵さんに花を添えている人を見た

早朝道端の草むしりをしている人を見た
誰も見ていない冬の夜
一晩中輝いている満月は

眠れない人のためである
落ちている片方だけの手袋のためである

開かれないアルバムの中で
笑っている顔がある
今も俯(うつむ)いている顔がある
ある朝燦然(さんぜん)と輝くものがある
誰かを待つて箱の中で眠っているダイヤ

冬の間
蓑虫(みのむし)は枯れ枝にぶら下がり
雪の日も風の日も
空を飛んでいる夢をみている

神との商談と結末

交渉というのは互いに平等な場合の言葉である
自分の都合だけで決め事をする場合は
辻々の高札に「定」「覚」が掲示されお上の意思が示された
為政者で常に民衆の意をくみ政治をする者は少ない
自分以外の考えなど聞きたくない、不愉快なのだ
上から目線での法令用語は通達、通告、通知という（消防法等）
同室での「雀と鷹」「兎と虎」の会議は会議ではない
第二次大戦の日本のような「無条件降伏」がある
首を締めながらいう言葉がある「イエスかノオか」
銃口を頭に当てながらいう言葉がある「イエスかノオか」
人質に刃物を突きつけながらいう言葉がある「イエスかノオか」
多少の話合いができる図もある
六対四とか七対三とかの力関係の（正しさではなく）割合が違う場合である
勝利はしても自分も片手片足失うからである
勝利に大きな代償があり得るので交渉があるのだ
歴史上強い者が七度も譲歩した記録がある

キリシタン密告懸賞金　現代語訳

創造主と粘土から作られた人間アブラハムとの交渉である
「アブラハムや。ソドムとゴモラ等の悪の都市は全て登録抹消したいので承知されたい」
「あいや、しばらく。軽薄な文化、風俗の乱れ等殿のお腹立ちも重々理解できますが
悪徳五大都市のソドムには正しい男の甥のロトがいます。
この五大都市に五十人のロトがいたらそのお裁きに猶予が与えられませんか？」アダムが懇願した
…いくら末法の世とはいえ一つの町に正しい人が十人くらいはいるだろう…
アブラハムの考えは甘かった
僅かの差で滅びたらと心配になりすぐ一割減の四五名ではと嘆願書を訂正した
「いいだろう」と神はすぐ同意した
その後アブラハムは各町に出向き警告をしたが嘲られるだけだった
アブラハムは日々不安になり交渉ラインを五十名から四五名に四十名から三十名に
三十名から二十名にさらに十名に値切った
ヤーウエの神は七度「いいだろう。ハハハハハハ」と承諾した
（神はロト以外ロクなもんじゃないと知っていたのだ）
タイムアップ　天使から予告されたＢＣ３１５０年早朝
死海上空で巨大隕石（小惑星）の空中爆発があった。
その日死海の南部一帯は核兵器百ケ分の高熱と爆風で消滅した
妻途中で塩の柱になってリタイア、脱出したのはロトと娘二人です

夢の中で

夢の中でこれは夢だ！と気づいたことがある
四、五歳前だと思うがよく夢を見た
天井から人が（座布団に座った坊さんが）降りて来る不気味な夢もあったが
隣の部屋からキリンが首を出した夢などは親から笑われた
母の胸に抱かれている自分を見ていたら
一番星から金の砂がキラキラ降ってきた記憶がある
懐かしい絵だが論理的にありえない
ともあれ時折リアルな夢を見たのである
夢の世界は何をしても叱られない
それである夜遠慮なく寝小便をしていたら
正夢（まさゆめ）で恥ずかしい思いをした
以後夢と現実をゴッチャにしてはいけないと肝（きも）に銘（めい）じた
それにしても夢の世界は素晴らしい
酒のせいにする破廉恥（はれんち）行為は許されないが
夢の中ではどんな悪戯（わるさ）をしてもいいのだ
覚めてしまえば跡形も無い世界なのだ
ただ夢は覚めるまで夢だとは気づかない
夢の中で「ここからは夢、ここまでは夢」と分かれば実に都合がよい

さらに自分で夢が選べれば最高だ
もしかして夢は妖のものが放映しているのかも？
それとも夢も現実と思うよう妖術をかけられているのかも？
ヨシ、今度夢を見たら「これは夢だ！」と叫んで
舞台裏の黒子をビックリさせてやろう
ある夜、遂に夢の中で「これは夢だ」と叫んだ
突然祖母が大笑いして夢は覚めた
今も祖母の哄笑がありありと思い出せます
祖母に化身した妖の黒子が子供に見抜かれ
「バレたか」と笑いだしたのだと思います
「胡蝶の夢」という故事があります
荘子は夢を見るのは人間だけでないことに気づいたのである
トンボの夢もある
花の夢もある
コトコト湯を沸かしている茶釜の夢がある。
みな夢の中にいて目を覚ますと消えてしまうのです ※

これでよかった

拾ったものは自分のもの
迷わずポケットに入れる人がいる
私は迷わず届け出る（すごく困っているときは分からない）
自分の飼い犬の糞は片づける(片づけない人がいる)
盗品や拾ったもので豊かな気にはなれない
人をかき分けて獲物を獲得するものがいる
人並みより強い力　素早い反応
競争力は動物の雄に求められる能力だ
時には英雄・豪傑という称号も与えられる

自分は自分の目では見られない
人が見る自分は鏡でみる顔　写真で見る姿が自分だ
そうであるし、そうではないとも思うので
私は自分の写真に興味がない
団体の記念写真に私の姿がないのは
寸前すばやくトイレに消えるか
シャッター時フイに亀のように首を引っ込めるからだ
絵が描けない私は晩年カメラを持つようになった

撮るのは人以外のものである（幼児の写真以外）
野草や雲やミジンコの動画もある

人は外見が良くて中身も良いものがいる
見かけが悪く中身も粗末なものもいる　（どうなってるの！）
私は不細工なのでせめて中身まで腐りたくない
尚、外見は自分の作ではないのであまり責任はないが
考えることには半分責任がある
半分と言うのは本能などは与えられたものだからだ（あとは神様の責任です）
人の世の後半、人付き合いは減ったが書物等で出会う人が増えた
知識に於いても心に於いても私を超える人があまりにも多い
とても太刀打ちできない人ばかりだが
生き物は人間だけではない　そういうことを知った
小さなことだが私がしないことがある
人間の自分にできる小さなことがある。
これが私の小さなムシロ旗だ

鼻曲がり土面　秋田

忘れもの

忘れものには小さなものと大きなものがある
借りた本、傘、十円の電話代から
大きな忘れものがある
炎天下車に置き忘れた幼児（死に至るまで声なき苦悶）
古事記には罪作りな忘れものがある
雄略天皇が大和の初瀬川で洗濯していた美しい乙女と出逢った
そのうちに召し出すので嫁がずにおれ、と言って去ったが
ハーレムに帰ると里の娘のことは忘れてしまった
（勿体ない。何と罰あたりの男であるか！ブ男連盟）
その娘は八十歳になったとき一途な心だけは知ってほしいと宮中に参上した
無責任男（八十歳以上）はすっかり忘れていた
それでも「軽いノリで言ったまでだ　ゴメン」と反物か何かくれた
史実によればこの天皇（余罪多数）の評判はすこぶる良くない
すぐ忘れてよいことがある
大きな記念式典の来賓達のご挨拶
忘れてはいけないことがある
今も生命の危険に晒されている人達（女・子供・老人・障害者）がいる
遠い国の出来事だが日々茶の間のＴＶで見ることができる

都幾川町　キツネ釣り

遠くの国ではなく七十数年前この国は無差別（幼児も）爆撃で
　日々一万人、十万人単位で殺戮（さつりく）された
人類史の初め人間の敵は爬虫類（はちゅうるい）や猛獣であった
以後人類史は弱肉強食と共食いの歴史である
一人の暴君、一強国のために数えきれない地獄絵が反復された
思い出したくないことがある
一日の仕事が終え床に入ると
泡のようにフト浮かんでくる画像がある
旅行から帰ったら死んでいた小鳥
泣いている幼女　ある人の後ろ姿　見たくない自分

いつかこの地球も無くなる時があるという
そして全てのＣＨ（チャンネル）がＯＦＦになった時
全ては見終わった書物のように
宇宙の図書館で埃（ほこり）に埋もれていくのだろう
不思議な形をした宇宙人が手にとるまで

自分

ある日「自分がいる」ことに
不思議さを感じて立ち止まる
おや、自分は一人だけしかいない！
それからその自分が他人とどう違うか調べてみた
やがて！は次第に消えてしまった
自分はこの世界で実に平凡で変わり映えのしない生き物なのだ
三メールもある訳でもない
バッタのように身長の十倍も飛べるわけでもない
空を飛べるわけでもないのでヒバリにも劣る
内面的にも特に勝れた能力は見当たらない
人様より勝れているものは見当たらず
調べれば調べるほど劣っているものばかり目についてくる（気分を害した上）
恥ずかしいのでそれ以上深く考えるのは止め自分を忘れた
そして大人になり年を重ねまた足を止めた
ある書物をみて目が点になった
モノを考えるのは身体の何処か、脳だと思わされてきたが
始めに皮膚感覚があった
受精卵の外胚葉（がいはいよう）の表皮が凹み脊髄（せきずい）とその一端が膨れて脳になる

ウニ、ヒトデは端末感覚だけで脳が無いという
タコの脳はネズミより大きい
（このタコ！という罵声は誤りで、このヒトデの脳無し！は正しい罵声）
脳は大きければいいわけではない。ー下手な考え休むに似たりー
複雑な社会構成を持つ昆虫は微小脳のまま経緯している。
心は何処にあるのか「ハートマークは心臓である」
「いや女性のお尻である」と抗議した画家がいる　※
移植された臓器は生前の嗜好を伝えるという
それで科学を知らない人は巨木や巨石までしめ縄を巡らせた
心は体中に広がり人を超えて広がっているようです
始めにひまな神さまがいた「光りあれ」と叫んだ後
無機物や有機物をこねているうちに単細胞ができ人間ができたのである
自分に気づいた人は同じようなことに思い当たる
始めに心のモデルがあった
自分一人だけでないということは
心は人を超えて宇宙の始め心を作ったものに繋がっているのかも知れない

視直径が月の十分の一の暗黒空間に観測された深宇宙

果て

「この道は何処まで続いているのだろう」
道は戻ってくる足跡のない沼地に消えている　※1
「これ以上大きいかね」
井の中の蛙は思い切り腹を膨らませた
小さなものには限りがないと思われてきた
さらにその半分は、と問えるからである
その理屈でゼノンという学者は
「飛ぶ矢は止まっている」「健脚のアキレスは亀に追いつけない」等
二千五百年間詭弁を弄し人々を煙にまいた
ゼノンが降参したのは二十世紀の始めプランクという学者の限界値の発見である
一番短い時間がある。但し１０の（マイナス４４乗）
長さは１０の（マイナス３５乗）それで複雑な物理現象が解けたのだ
自然界の定数は光りの速度と絶対零度となった
その後光りより早いものがあると呟く者が出たが相手にはされなかった
「困ったもんだ」泉下のアインシュタインが嘆息した
光りの速度を私の散歩速度まで落とした者がいる　※2
「時間よ、止まれ」冗談で呟いたゲーテが起き上った
時は往きて帰らぬ川の水…

嘆いた鴨長明（カモナガ・アキラ氏）が目を丸くした
心の世界のプランク定数は幾つもある
一杯の飲み物　一切れのパン　一つの言葉で
時が止まり、不幸になり、幸せを感じる人がいる
人の世の終り、生まれてこない方が良かったと俯く者がいる
顔を綻ばせる人がいる
苦難と不運の人の世を過ごしたが
一言貴方がいるので生きている。　と言われた人です
誰も知らないある一時・ある一日の為にこの世は良かった、　と呟く者もいる
百まで数えないうちにこの世は誰もがたちまち風となり土となる
元素から生まれた者は思い通り元素に帰る
夢をみる者は元素を超え羽化して旅立つ
その異次元ドアは何処にあるのか？
「すぐそばにある」宇宙人イエスの言葉である　※３
この世界は不思議な多次元世界なのである

言葉

始め言葉はなかった
要らなかったのだ
イルカは超音波で自由に遊ぶ
類(るい)を超え人間に戯(たわむ)れてくる
複雑な社会構成をもっている蟻も蜂も言葉はない
繁殖期になると光りの点滅で会話する蛍
鮮やかな羽色となる野鳥
繁殖期を過ぎると気配(けはい)の無くなる雄(おす)たち
俳句は十七文字　短歌三十一文字
ゆっくり読み上げても十秒とはかからない
乾杯の挨拶が長い人がいる
心より、誠に、衷心(ちゅうしん)より、ご祈念(きねん)して、　みなウソです
中でも「喜びに堪えない次第です」はひどい
耐えないというのは泣き、叫び、踊りだすことです

忘れられない一つの情景がある
一組の夫婦が激しく言い争う中で
未(いま)だ言葉を駆使(くし)できない幼女が

二人の間で手を振り涙を浮かべ身体を震せていた
やめなさいと仲裁していたのだ
どちらともなく争いを中断した

巨大なバベルの塔は言葉が通じなくなったとき瓦解した
日本で初めての十七条の憲法は聖徳太子が制定したという
制定前夜、太子は過ぎた年月と群臣達に思いをはせた
それぞれがそれぞれの信条をもち収拾(しゅうしゅう)は難しい
沈思黙考(ちんしもっこう)の末、第一条を「和を以て貴しとなす」 とした
そして驚くべき役人のランク基準を定めた
徳仁礼信義智 ※
現代の官僚組織とは順位が真逆である
千四百年前のことである

中宮寺「木造菩薩半跏像」

苛めは楽しい

苛めによる子供達の自殺が絶えない
その都度全国に報道されるがその後の消息は不明です
暫くして同じ事が報道されます
ガン細胞（正しくは悪性新生物）インベーダーの仕業です
身の回りの者がある日突然変身するのです
苛められたと感じるのは苛められている者だけです
苛められるのは常に一人か少数の弱者で苛める方は多数
傍観者も多くて軽い気持なのだ
夜ごと眠れぬ一夜を迎える者と安らかな眠りにつく者達
苛める方は楽しいのです
苛められる者がいくら悲鳴を上げても
加害者はそれを見てさらにエスカレートしていく
不可解なのは苛められた者のその後の姿である
後輩、弱いものに同じことをする者もいる
獣以下の姿である
人の世には人の上に立つ者と栄誉を得た者がいる
苛めの対象は常にその下にいる者です
苛めは昔からある

山彦は無くした釣り針を剣をつぶして千個返すと言ったが海彦は応じなかった
江戸時代の松の廊下事件。仇討ちには返り討ちもあった
…楽しみは　善光寺参りと　嫁いびり…
この 舅 はボランティア活動などしていて人望ある婦人会の会長である
苛めは宗教家や学者の世界にもある
ある時代権威ある者達から嘲笑される人がいる
暫く後それが間違いであることが判明する
生存中名誉を回復する者もいるが
憤死した者や孤独死した者は生き返らない
水槽の魚でも共存出来ない生き物がいて
人が隔離しないと死ぬまで攻撃する
世の為人の為に、愚かな民衆の為に様々な規則をつくる人達がいる
上から目線で作った様々な罪名にはその罰がある
そしてそのようにした者の罰はない。罪名もない。時には恩賞まである。
私が見たこの世界の曼荼羅である
それを是認するのが悟りなら私は悟りたくない

「ダメおやじ」古谷三敏

カーテン・コール

目的が結果にあるのなら
生まれたのは死ぬ為である
いやなら始めから生まれなければよい
生き物の目的は何か
何かを得る為とか
何かになる為であると思う
では苦痛ばかりの人やその他大勢にはどんな意味があるのか？
寒風の中で枯木立は考えている
芽が出る日／葉が茂る日／花が咲く日／実が稔る日のことを
目的は過程にあるのかもしれない
プロセスが全て目的と考えてみる
地上の命が一日しかないものがいる
「一日一生。羽化してからの一日は短かかった。…でもこれでよかった」
産卵を終えて水面をながれる陽炎が呟いた
陽炎やユスリカの言葉である
曰く「人は草なり」※1　旧約聖書
普通の草の生涯は一年であるが
多年草は贅沢に草の命を二回も三回も繰り返すのだ

かげろう　一夜だけの晴れ着

長く生きることに意味があるなら樹木には敵(かな)わない
過ぎて見れば「千年も一日。…でもまだ分からない」
ピラミッド時代より古いセコイアや縄文杉の述懐(じゅつかい)である
短い命を急ぐ人の群れがある
この地で生を受けた者で自分の意思で自分を作り、
その一生の脚本を書いた者がいるだろうか？
生き者はみな与えられた台本をもってこの世に登場する
（台本を与えられなかった者達の羨望(せんぼう)のまなざしの中で）
生き者劇場は幕が閉じて全て終るが
良いドラマにはアンサンブル・カーテン・コールがある
王子役、乞食役、お姫様役、下女役、敵(かたき)役、主役、脇役
終幕後出演者すべてが登場する
星空の下でみんな手をつないでいる　※２

銀河鉄道の夜　　宮沢賢治

私の御先祖様

御先祖や一族に著名人や名門に所縁（ゆかり）のある方がいます
過去帳で調べました
私の父方の御先祖は歴史上にまるで痕跡（こんせき）のない百姓でガッカリ
お寺でなく地質時代の過去帳で調べました
嬉しくなりました。 遠い御先祖ですが偉大なる業績を確認したのです
この地球に生き物に必要なのが酸素です
その酸素を作ったのが私の御先祖でした
お名前は「シアノバクテリア」学歴はありません。単細胞です
性別はなく不老不死です。
この地球に生れたのは三十六億年前頃です
それから何十億年もせっせっと水から水素を利用し酸素を分離しました
鉄鉱床を作ったのも堆積藻から重油を作ったのもシアノ様です　※
廃棄物の酸素が海から大気に溢れ始めたのは二十億年前頃でした
その酸素貯金を使えばいろいろなことが出来ます
ミトコンドリア（水戸の近藤さん）という女性が機をみて同居し合弁会社を作りました
名前も単細胞でなく合弁会社「真核細胞（しんかくさいぼう）」です。
この新会社は地球に行き亘った酸素を使い大躍進を遂げました
五～六億年前生命の爆発と称されるカンブリア紀が出現したのはみな「真核細胞」

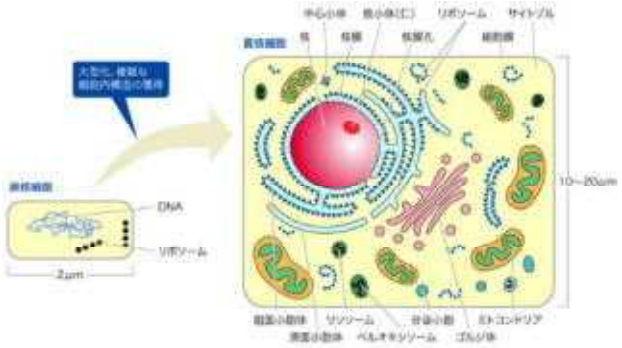


図1　原核細胞と真核細胞

細胞構成。 メーカー不明。 自然にこうなっています。

のグループです
三葉虫も、恐竜も、雀も、タンポポもみな遠縁のものです
昔、植物界に別れたニンジン様ゴボウ様縄文杉等々多種多様です
ミトコンドリア様の功績は数え切れませんがお土産があります
寿命です。それから全ての生き物は何時か死ぬことになったのです
（ま、いいか。そのくらい）
外来種でも良い方もいますが困るのは戸籍不明のウイルスです。
ウイルスは最悪の寄生生物で単細胞が生まれた時からいます
（悪いことして何処悪い！）
温度には弱いのですが低温には強く結晶化して宇宙空間を飛来します
定期的に人間を風邪（かぜ）で悩ませ鳥や家畜を襲い大量殺処分になります
人間の御先祖、縁者は多過ぎるので付き合いきれませんが
始め御先祖のゾウリ虫様には拡大鏡で対面できます
新年にはまず単細胞様、次にお姿は見えませんが母系のミトコンドリア様に
二礼二拝しています

シバの女神

醜い自然もある

萎(しお)れた花、腐った果物、弱肉強喰の図みな自然の姿である
虹やオーロラなど美しいものは地表のどこかで見られるが
グロテスクな失敗品は人目をさけて深海に保存しています
醜いものは美しいものの引き立て役
ワルモノはイイモノの引き立て役
滅びるものは滅びないものの引き立て役
「という、摂理(せつり)である。分かりましたか」
「分かりません」
宗教は一人の神様ということでは説明が苦しくなるので
もう一人の悪の神様が居ることにした
キリスト教ではサタン
ゾロアスター教では太古から善悪二人のデスマッチが続いている
この世界の最初の登場人物は単細胞である
やがて多細胞に発展し個人企業が大企業に変身するように
地球には様々な生物が作り出された
生きものは形の多様性だけではない

生態系のいずこもその戦術戦略は何でもありだ
大口、牙、スピード、威嚇、咆哮だけでなく
擬態などという高等技術にも事欠かない
中でもハナカマキリの擬態などは見事である
政治家の弁舌、ＴＶＣＭ全て生物の擬態に原型がある
人間は擬態、托卵、恫喝等の技を全て自然から学んだがさらに
狡猾さでは自然を超え残忍さでは全ての生物を超えている
天国界はいまだ予告編を垣間見るだけだが
地獄界は盛況である
この世では裁けない罪人が増え続けているので
窓口を増やし施設を拡大し鬼達を急募している
かくして地獄界はサタンが賞賛するまでに至った
生物界で人間はついに百悪の王となったのである

ハナカマキリ

定番刑事モノ

退屈な時間はＴＶの推理ドラマを見ます
まず何処(どこ)かで死体が発見される
誰かが殺される
まさかの犯人を見つけるのが名刑事です
権力を持つ者の悪智恵を暴(あば)くのは面白い
社会的強者と知恵比(くら)べで勝つのは
　よれよれのコートをきたコロンボ刑事です
でも和製の刑事モノは違います
何故か上司(じょうし)は体制維持が第一でバカで横暴
何故か和物(わもの)の犯行は社会的弱者が大半です
何故か盛りを過ぎた人気俳優が次々と刑事（その他裁(さば)き役）になります
悪人の仕打ちに耐えに耐えた小市民が、ものの弾(はず)みで
　人を殺してしまった、というパターンが好み
因(ちな)みに殺人が大罪なのは仲間うちのことで異教徒、他国民はいいのです
だから、どの国でも軍隊があるのだ
殺人は大罪なれど殺される前に殺すのは正当防衛だ
ドラマでは犯行に至るまでこれでも、まだ？と
　ギュウギュウ拷問(ごうもん)に似た不自然なストリーを拵(こしら)える

結果的に罪を犯してもそうさせたものが悪いのです
にも関わらず「罪を償(つぐな)って来なさい」と
何処のＣＨ（チャンネル）でも芸能人が扮する刑事は手錠をかけ連行するのです
　神様でもあるまいし　※
この世界には法にふれない罪が溢れています
愚か故に気づかぬ罪
心が冷たい罪
見て見ぬふりをする罪
不完全な法律があります。　バカげた規則があります。
人を裁く資格に欠ける人達がいます
上から目線で庶民を監視、指導、裁きが好きな群れが大勢います
もの影に隠れて違反を見つけるオマワリさんの仲間だ
一件落着。刑事さん達は行きつけの小料理店でお疲れ様
「楽しみは善光寺参りと嫁いびり、他人の不幸は鴨(かも)の味」
私も貴方もＣＭを見ながらお茶の間から眺めています

モコ

一戸建の家に住んでいます
「埼玉犬」の表札もあります
名前の由来は毛がモコモコしてたのでモコ、雑種です
朝晩散歩にいく以外は新聞もテレビも見ません
午後は下校の子供達が遊びにきます
散歩は食事より楽しみで定刻が過ぎると
（いい加減に仕事をやめろ）と犬語で催促します
モコは空とか雲とか上を向いて歩く事は苦手で
立ち止まっては地の下にいるものと話しています
誰も来ない時間は考え事をしています
野犬になって群れをつくる夢でしょうか
いつのまにかいなくなった家族のことでしょうか
犬のこのままでいいと思っているフシがあります
鎖を外してもすぐ戻ってきて座っています
場所が通学路で子供達が大勢通ります
「お手」と「お座り」は相当な数をこなしております
今は九歳、人間なら中年です
気立てのいいメスがいたら…孫の顔がみたい… とか

子犬の時去勢しているのでそんな悩みはなさそうです
日当たりのいい午後などパンツもはかずハラをだし、あられもない姿で
　ひっくりかえっています
モコの苦手は風です
シエリーの「西風のオード」を想いだすのでしょうか　※
木枯らしの吹く夜は悲しげに遠吠えを繰りかえします
家の玄関に入れた事があります
モコには前科があります
お隣の家の鶏を二度襲っています
犬は食事時は要注意です
普段は子供好きなのですが噛んだ事があります（幸いケガには至りませんでしたが）
お酒が入ると変身してしまう人がいます
酒乱の方もお酒が入っていない時は愛想のいい人格（ひとがら）に戻ります
モコは防犯用に飼った犬ですがとうに任務を忘れ
深夜のドロボーにも吠えませんでした
食事時以外では人付き合いのいい犬なのです

それだけでいい

いつも不足なものがある
お金があったら…
何らかの能力があったら…
こんな境遇(きょうぐう)でなかったら…
もう一度やり直しができたら…
幸福の青い鳥は捕まえてみると
いつの間にかカラスになっている
美しい蝶は虫籠の中で毛虫になり
キラリと水藻の中で光った魚はバケツの中で死んでいる
不足なものは子供の頃からあった
不足は一つが満たされると他の不足や不満が生まれた
そうして不満や不足は年とともに皺(しわ)や白髪(しらが)のように増える
殆どの人が無名で生まれ無名で終わるが
そんな世も捨てたものではない
時として舞台が暗転(あんてん)し夜が朝になることがある
暗い波間に灯台の光りが見えることがある
小石がダイヤに輝くことがある
他人(ひと)事でも長い苦労が報われ多くの人に賞賛されるのはいい

「われ幻(まぼろし)の魚をみたり」苦節(くせつ)二十一年のある秋の日
和井内貞行(わいないさだゆき)は湖岸(こがん)に近づくさざ波に目を凝らした
産卵のために湖岸に押し寄せたヒメマスの群れであった　※1
死を前にネボ山で約束のカナンの地を見たモーゼ　※2
ショッピングカーの幼女と母の姿を見よ
パレードの車上で手を振る女優より輝いている
今宵は木枯らしが途絶えた後の冬の満月である
何処(どこ)にも月の宴(うたげ)はないが誰かに礼を言いたい
全て不足の中で一つの贈りもの、一つの言葉で幸せになる人がいる
みな虚しい多くの賞賛、勲章、表彰状以上のものだ
人の世は人を超えたものが観ている
心はそこにつながっているとおもう
無名の私の友はこれまた無名である
今日その友と病(やまい)を持つ娘(こ)の手紙を見て心が和んだ

在るか無いか

在るか無いか　居るか居ないか
深海や洞窟には生まれながら闇の中に生きる者がいる
幸い五感に恵まれた者は見える世界まで持つが
見えているもの全て在るとはいえない
仲秋の名月は人が見なければ無いのだと言った賢者がいる
心が醒(さ)めてしまうとたちまち人一人何処かえ消えてしまうように
心が感じるものは　懐かしい　寂しい　楽しい　悲しい
美しい　醜い　怖い　怖くない　面白い　面白くない　好き　嫌い…
心の世界は重さがなく在ったり無かったり実体がない
この世界には人が作ったものとそれ以外のものがある
人が作ったものは人に理解できるが
人以外のものが造ったものは人には分からない
子供の頃からの疑問がある　その責任者はいるか　いないか
ＩＱ２００博士号十ヶ以上持つ学者が人を超えたものが在ると感動する
同じくＩＱ２００博士号十ヶ以上持つ学者が法則と数式は信じるが
　その妄想を憐れむ
人の心が描く神は民族毎時代毎に大勢居る
妖精から怪異な姿まである

秋田　マリア庭園

どれかが真実！どれも真実！どれかが妄想！
それを判断するのは誰か？
現実と夢の区別は定(さだ)かではない
マジシャンが手を開くとコインが消えているように
今も思う　かって確かにここにいた人がいない
闇の中で沈黙しているカラスの鳴き声は聞こえるが
誰もいない深い森の奥の倒木の音はない　※
世界はそれを作ったものの夢だという
その夢の中で秋田の聖母マリア像は涙を流し
路傍の石の仏は視線を伏せて微笑んでいる

金昌寺　幼児像

時は今だけ

朝起きる時がいい
　朝は全てが始まる時　「今日は〇〇をしょう」　（小さなことだけど）
明るい昼間がいい
　永遠の昼 地に光りが溢れ　水の底も明るい
日暮れの時がいい「お疲れさま」　一日の事は一日で終わる
　夕焼けが美しい　鳥が巣に帰る
寝る前がいい　手術時の麻酔のように何時の間にか深まる眠りがいい
　夢の世界が開き　賢者たち祖先(おおおや)たちが語りかけてくる
四十億年前から続く生きものの歴史は星の世界へと続く
「ゴトン」　壊(こわ)れていた水車が動き出すように
あるとき時間が動き出した
舞台に人が現れる　影絵が動き出す
三百年前芭蕉庵に一人の男がいた
ー古池や蛙(かわず)飛び込む水の音ー
その音の余韻(よいん)はまだ続いている
千年前の今　小野道風(おのの とうふう)が柳の枝に飛びつく蛙を飽きもせず見ていた
二千年前の今　キリストはカナの婚礼(こんれい)で水を葡萄酒にして笑っていた
二千五百年前の今　昼寝から醒(さ)めた荘子(そうし)がぼんやり蝶を見ていた

一億年四千年前の今　紺碧(こんぺき)の空に初めて始祖鳥(しそちょう)の鳴き声が響いた
小さな恐竜が助走の後地を離れたのである
鶏の先祖が恐竜であったことは歩き方をみれば分かる　※
ーこの里に手鞠(てまり)つきつつ子供らと遊ぶ春日(はるび)は暮れずともよしー
二百年前の今　子供達と遊ぶ良寛の一枚の絵がある
私の記憶の中の絵は千切って捨て燃やしたいものばかりだが
捨てる前に見ている一枚の絵がある
遠回りして一人の少女の家の前を通ったこと
橋桁(はしげた)の藻に泳ぐ小魚に見とれていたこと
夜中に飲んだ水のうまかったこと
声を掛けたかった後ろ姿
それから…
永遠の今

行田の古墳

心の世界

「行ってく（帰）るかね」
笑顔で送り出した子がそれきり帰らない
東日本大震災の朝元気に家を出た日和（ひより）幼稚園の五人の園児達は
　送迎バスの中で遺体となった
子供は親の生き甲斐である
ましてや幼児は母の宝だ
それから六年間その遺影（いえい）の前に年毎の教科書を供え
生きていればと中学生の制服を誂（あつら）えた一人の母を見た

生きていても死んでいる人がいる
忘れられた人である
心の世界がある
心が宿る身体は主（おも）に水分と肉と骨である
その下部組織は細胞であり、分子で素粒子である
僕は神など信じない　と誇らしげに言う人がいる
理由はテレビに出てないとか　すぐ駆けつけないとか

聞けば素朴な定義である
先端科学は虚数空間や余剰次元を示唆している
この世界の「在る」には階層がある
水の下部構造は水素と酸素である
名画の下部構造は紙と絵の具である
巨大なビルも精密機械も始めにあったのは想いである
この世界の全てのモノには先立つ思いがある
心は物の上部構造である
二千年前のある日論議を中断し幼子を抱き寄せてイエスがいった
「神の国はこのような者の国である」
子安観音も幼児を抱いている（宗教、宗派はどうでもいいのです）
一度生まれたものは生きている
そこへは昔からどこでもドアからいける
キリストが嘘つきでないかぎり

ふふふふ

傘寿（さんじゅ）　遂に男の平均寿命の峠を超えた
賞味期限が切れたのである
未だ功ならず名をなさず逆立ちすれば十八だ
ふふふふ　こみ上げてくる笑いがある
何故か　特に身体に気をつけた記憶がない
食事を控えて酒を飲み　忠告のある肥満体である
カウントダウンが始まったのに緊張感がうすいのは
脳内に滲み始めたドーパミンのためかもしれない
（紅葉が未練なく枝を離れるのは老化促進剤エチレンが分泌され
人の死期前には幸せの麻薬ホルモンが脳内に分泌するのだという）
これは人の飼い主の偉大なる智恵である
私がその長い年月で得たものは何か　他人様に誇れるものがあるか
　思い出したくない愚かしさ　醜さ　悲しさ
八十頁の自画像は塗りつぶしばかりで吾ながら気の毒な人生であるが
カンダタ（犍陀多）になり下を見れば　※
これまた人の群れが血の池まで続いている
人様々とはいえ背丈が倍を超える人には出逢った事が無いが
心の世界では私より十倍百倍を超える巨人族がいる

主に書物や時代のＰＣのサイトで出会った人達である
その諸賢聖人達に私は嘆息する
嬉しいことにこの世界には私の感じる事を感じる人がいる
ユリイカ（分かった）！アルキメデスは風呂から裸で飛びだした
ミダス王の秘密を知ってしまった
イソップの床屋は古井戸に「王様の耳はロバの耳」と叫んだ
それほどのことでもないが私なりに日々細（さざ）やかな発見がある
長男である私の家系は絶えるが人類史には関係ない
おもに無名だが私にはこの世界で出会った人達がいる
自分の孫はいないが大勢の他人の子供や幼児達がいる
人の他私に好意をもつ犬までいる
到達した山頂から見渡せば一面、日の出前の雲海だ

気配

釣り人は黙って水面を見ている
魚は人の気配があるうちは近づかない
山野で野鳥を観賞する人達は会話を控える
人の気配を消す
やがてレンズの中に鮮やかな姿を現す鳥達がいる
草むらの虫たちは足音で声を中断するが
静かにしているとまた鳴き出す
昔、人が山に入るときには幾つかの掟があった
山の生き物達の名を気安く口にしないこと
それを聞くと山の守り神は気分を害し
黒い霧を起こし時には雪崩を起こした
それでマタギは「クマ」を「イタズ」と隠語を使った　※

人の気配があると姿を現わさないものがいる
半獣神やフェアリーは人の気配が消えると異次元から現れる

蝶やトンボが人を恐れないのは
人の霊が時折化身しているからだと思う

自分が無くならないうちに
この世界のものを何でも見ておきたいと
国内だけでなく海外各地を旅する人達がいる
私は国内も海外もあまり知らないが
誰でも見えるものにはあまり関心は無い

いつか私は人が見えないものを見たい
聞こえないものを聞きたい　と思うようになった
花の中から飛び出した一匹の蜂が告げた
人を越える者に出逢うには旅立つこともない
そこで待っていればいいのだ
やがて木の枝に腰かけ手を振っている人が現れる
花影に人が現れ私を見ている

「読売歌壇」より個人的好みにて自選

平成２８年２月～一年未満

お父さん　私ら長く生きたわね　さういう妻の頭撫でたる　城陽市　相原陽次

大病の後に生まれた奇跡の子親の意見を全く聞かず　松戸市　菊池玲子

いつもなら呼んで来ない猫が今日は泣いてる私の隣に座る　新潟市　古泉　玲子

一人では勿体なくて妻を呼ぶ玄関からの夕焼けの空　延岡市　河野　正

たったいま遠くのほうで嘶(いなな)きが聞こえたような気がして九月　仙台市　小林　恵子

孫娘が自分で書いた招待状じじばばは運動会に出ずばなるまい　東京都　青山　繁

「卒業しても逢ってくれる？」と言いし君我が妻となりて共に還暦　佐倉市　栗田　和由

貴方から入国許可がおりぬから不法入国をしたつかまえて　上尾市　関根　祐治

日ぐらしの鳴く道ひとり帰りゆく寡婦となりたり妹あはれ　青森市　安田　渓子

青い夏の夜　熊田千佳慕

半世紀経て小六の同窓会　どこでもドアからみんな出てくる　泉佐野市　米谷　茂

なっちゃんがばばまもるね階段で我が左手を握る三歳　東久留米市　小林　久枝

着ぐるみの頭を脱ぎて昼休みタバコくゆらす猿とライオン　佐野市　村野　則高

一歳の曾孫(ひまご)瞳を凝らしいる雪の降る様を見て　福島県　塩田　全宏

職退きて我に命令するは広き天地に妻のみとなる　東京都　上田　国博

妖精が銀のラッパを吹きながら降りてくるごとし春のぼた雪　仙台市　小野寺　健二

「んだす」とお答えをする団長に皇后様はほ笑まりたり　横手市　高橋　康子

この夏は蛍見たしとふと想う　父より八年長く生きたり　狭山市　奥蘭　道昭

はつなつの庭に白バラ咲き満ちてきのふもけふもだあれも来ない　霧島市　久野　茂樹

二頭立ての馬車に双子は舞心地二人用ベビーカーママが押しゆく　清瀬市　石井　孝

「梅雨入りしたとみられる」予報士は高貴な姫の侍医のごと言う　三次市　山元　美和

先生に挨拶すれど先生はわれを覚えておらぬさびしさ　君津市　染谷　昇

がん手術日終えたる患者六名が展望室にて海を見ておる　別府市　松本　三四

「ママ大好き」いつもの手紙くれるのは決まって何かをしでかしたあと　防府市　本園　比佐子

この世には何処にも居場所なかりしか舗道に蚯蚓（みみず）ひからびてゐし　久喜市　深沢　ふさ江

目覚めたら四十年前の六畳の下宿の部屋にぽつんと居たり　藤沢市　清島　俊雄

ふるさとの小さき叔父に会うごとき円空仏はなつかしきかな　三原市　上脇　立哉

天井の蠅をしみじみ見ておれば蠅もしみじみわれを見下ろす　高崎市　門倉　まさる

何事か成し遂げたりというように大の字になり蛙死に居たり　下田市　後藤　瑞義

読み掛けのページハラハラ動くとき幼児のぃう「風が読んでる」　浜松市　市川　恵美

ゆらゆらと右に左についてくる今宵の月は酔ってゐるらし　青梅市　諸井　末男

読売歌壇外

サンケイ歌壇生方たつえ　選

朝毎に朝の階段掃く人と言葉交わしぬ我も掃除夫

泣かないで山田先生泣かないで先生のクラスの子でよかった　名古屋　中村　桃子

ねえちゃんの頭のかたち知りました今朝めずらしくなぐさめた時　富山市　松田　わこ

男子たち「そっくりなひと見た」というねえちゃんだろうな１００％　富山市　松田　わこ

パパ似ともねえちゃん似ともママ似とも言われる私どれもうれしい　富山市　松田　わこ

人間の言葉をしゃべる猫かもね風かもね桃かもね妹　富山市　松田　梨子

自作自選短歌

反対が知性と正義と信じてた　そういう時代がありました

目の数と耳の数だけある世界　オレは一つ目一耳(ひとみみ)小僧

漸くに先端科学が気がついた　多次元世界は昔からある

自らを詩人と称する人がいた　そういう人種でなくてよかった

天国は異次元世界でチラと見え　どこにでもある地獄界

選ばれた正しく賢い人達が　見よ！群鶏の如く蹴り合い叫ぶ

職責を忠実にしていると疑わぬ　上から目線で嫌われてる人

自己評価　回りの評価は違うこと　貴方死ぬまで分からない

ＮＨＫの解説　健康ＣＭ芸能人ならタダ泊り　日本は平和国家です

傘寿とは孔子も知らぬ新世界　逆立ちすれば十八で目出度い

幸せだなあ 今はどこも痛くない　ヤキトリで焼酎飲んで今宵満月

朝日新聞にも読売新聞にも毎月曜に俳壇、歌壇の入選作が四十編掲載されます。

いずれもこの世界で著名な四人の選者が各自十編選びます。三編は優秀作、七編が佳作という扱いです。面白いのは四人の選者が共通で選ぶのが希なことです。

共通して選ばれた作品には頭に☆印がつきますが二つは時折、三つは希。四つはまずありません

改めて感性の世界は人様々だと分かります。そのために四人の選者がいるのでしょう。

私は毎週目を通しています。私の好みの作品があると◯印をつけてスクラップブックに保存します。好みのものに◯印を数えてみると改めて私の独断と偏見が分ります。

ともあれ月曜の朝の一時心の世界が広がります。この短歌いいでしょう面白いでしょう！そう思われる方が約一人いれば幸いです。つでに川柳も拾い集めました。悪ノリして私の作品もブレンドしてあります。「やはりな、コレだろう」とご指摘頂ければ粗品を進呈致します。

夕焼けちゃん

川柳　自選

（童画）

よだれかけしたまま死んだ男の子
雪ン子になって　水子よ降りてこい
月の夜の客　みな銀の鞍に乗り
もう一頭馬あらわれて春の夢
年一度ここにいますと山桜
長靴の中に一匹蚊が暮らし
保母さんへ幼き恋の雪つぶて
銃をむけ「おててあげろ」と遊ぶ孫
訴えるように鹿来る交番署
鹿が来て　大仏殿にいけという
台風はいいな　進路がきまってて
さといものはっぱはあめのすべりだい
こわいもの知らず隣のひよこ来る
「あ　おばさん」隣の猫が会釈する
その昔巨龍見たかと問う曾孫

（視角）

人間の手がしつこいと思うハエ
全員がここだけの話を知っている
孫がきくどうして頭はだかなの
赤ちゃんを見ろハゲてても可愛いぞ
タバコは外酒はうちでと妻がいう
メダリスト知人はあだ名で呼びたがり
いじめ甲斐ある人を待つ胡瓜もみ
うつむいて女作戦練り直す
話合えば女に負けること多し
バカなこと考えないで寝てと妻
バラに似て妻も花散りトゲ残す
「おとうさん」やさしく呼んでゴミ渡す
それはもう化粧で無くて塗装です
そこどいて妻に言われて席をたつ
あの世では探さないでと妻がいう
指一本　スマホとオレを使う妻
目を閉じて夫婦げんかきく子猫

政治家の挨拶いらぬ夏祭り
笑うとき何故手を叩く芸能人
バカタレは語源はバカなタレントか
コマーシャルこんな芸人逆効果
「売れてます」だったらＣＭいらないじゃん
叩かなきゃ笑いがとれぬレベルかい
タレントの時事解説を聞いてもね
芸術と言われたらもうしかたがない
存在を誇示する為に反対し
大物で有名人で品が無い
何にでもコメントできるしたり顔
顔ぶれをみれば結論みえてくる
曲ったことは嫌いだと曲がった人が言う
報道の自由という名のご商売
休日を彼と過ごす屁がたまり
そんな歌詞わざわざウタにしなくても
見積りも値引きもしないお医者さん
半分コがうまくできすぎなやむ姉

「お若い」と言われて子供喜ばず
コレお金苦しゅうないぞ近こう寄れ
そうですねそう思わないけどそうですね
衣食住足りて悪事に走るだけ
出る釘は打たれるが出る腹は凹まない
黄門よ供を連れずに旅にでよ
終わるかと思えばガッカリまた話し
お終いに質問をするバカがいる
毒舌にひどく傷つく毒舌家
オネエ系謙虚なひとはいないのか
イチローを越えたと二浪の息子言い
民営化されたら困るネズミとり
（おれにやらせてくれ）
熊谷の隣の市でも暑いです
まっすぐに生きてきたのに腰まがる
人格の差広がる高齢者
この歳でやめてどうする酒タバコ
長生きに聞けば毎晩酒を飲み

人の世は嗚呼で始まる広辞苑

見える者みえないものみな朧なり

一人去り二人去り仏とふたり

冬日一つ　幸福もまた多からず

（川柳は（も）ゲイジュツです）

河童立ち上がると青い滴する

雪しんし　猪の親子は谿を超え

雲一朶月の過客でありにけり

ふな虫よ　おまえ卑怯で美しい

（補足がいるもの）

ー馬鹿な子はやれずかしこい子はやれずー

小田夢路　明治２６～昭和２６年

妻に先だたれ幼い子供が四人いた。親類か何人か引き取る話が出ていた時の迷いの句である。

（出所不明）

愚かさや欲に手足が生えた方

オレみたいなバカという人その通り

ご起立で乾杯させるの好きな方

悪人が悪人の顔している時代劇

あんただって立場違えばやるかもね

赤キップかあちゃんの時もきるだべか

外国にやるカネあるならオレにくれ

宗派外殺しても神様いいですか

もうしない向かい風での立ち小便

胸元につい目がいくよ男だもん

短所一つオレに気のないいい女

権利説く女性貴方は既に男です

星空は昔のままです聖夜です

雨の日は一日地球が止まってる

昨日から人は居ません赤トンボ

追補

酔生夢詩

４頁　※ 語源「程子語録」の「酔生夢死」。 中国では先生のことを「子」と敬称したようです。程顥（ていこう）・程頤（ていい）兄弟。二人とも程先生である。 日本でも一時的ではありましたがオバケのＱ太郎の作者「藤子不二雄」は藤本弘。安孫子素雄。二人のコンビ名であったのを連想します。

夢の中で

１１頁

※映像技術は紙芝居→幻灯→ 白黒映画→カラーＴＶ→４ｋＴＶ→立体画像（ホノグラフィ）へと一世紀の間に飛躍的に進歩した。今や仙人鉄観子が仙術で杜子春に見せた妖怪や地獄図は、今や先端技術で作られるバーチャルリアリティ（仮想世界）と同じで現実と区別つかない。

工学博士　野口慊三

自分

１７頁　※ かって浦和市に佐藤六郎というユニークな画家がいました。出逢ったのは私が三十歳前後のことで半世紀もまえのことです。 ある会場で埼玉県の詩壇、俳壇、歌壇の名士の方達の講演がありました。その会場で私の近くにいた痩せた五十過ぎの男が、手を上げて妖艶な俳壇の女性に質問しました「先生、ハートマークは心臓ではなくボクは女性のお尻だと思うんだがね」話かたも訥々（とつとつ）としてその会場の雰囲気そぐわないもので失笑と憫笑が感じられました。そのとき司会の大学教授の方が「ただいま質問をされた方は佐藤六郎さんといって二科会の会員の方です」とホロウされたので画家の方だと分かりました。それ以来、私は年の割に大人げのないその方が好きになりよく瀬ヶ崎のアトリエに遊びに立ち寄りました。 改めてネット検索してみました。

同姓の方が何人かいましたが私が出会った本物の「ロクさん」は見当たりませんでした。私の記憶にだけ生きている人です。

果て

１８頁

※１　何処かで見た童話

※２　ローランド研究所とハーバード大学に所属するリーナー・ハウ博士は光速を１．６ｋｍ／Ｈ迄遅くする実験に成功した。

２０１２．２．２５　ＢＢＣ

１９頁　※３　ルカ伝２３-４３　キリストが十字架で処刑されたのは十二時前である。十字架の上でキリストが隣の死刑囚に言った言葉がある。「今日の午後あなたは私とともにパラダイスにいるであろう」

パラダイスがこの世であるならそこはゴルゴダの岡から歩いておよそ１０ｋｍ以内ということになる。パラダイスは時空を超えた異次元世界で地球上何処からでも瞬時にいけるのだ。キリストはそこから来た者なので「私はこの世の者ではない」と何度も断っている。

言葉

２１頁　※　儒教が原典です。「徳」以下の個別順位１番仁は同じだが、２番義、３番礼、４番智、５番信を、１仁、３礼、５信２義、４智。仁以降順位変更している。階位により、役員会、総会等の席順が色別で分かる。幼稚園の智恵である。（「徳」について蛇足、仁、礼、信、義、智・を完備しているものの呼称。類似、消防法の危険物には一類から六類までの資格がありますが、頭に乙がつきます。危険物甲種があります。甲種は全類に相当する金印です。これに似ています）聖徳太子と孔子との価値観の差がうかがわれます。太子の高貴な人間性は後の世まで評価されているが現実的ではなく死後まもなく一族抹殺される。同じ中国人で実務家の孫子の価値観は真逆で、五

徳の
順位は智、信、仁、勇、厳とカテゴリーも違ってくる。智を冒頭にもってきたのは流石で孫子の兵法は今なお健在である。 時代物の「極道映画」に「仁義」の額縁がよく掲げられている。
孫子より格調の高い理念である。

カーテン・コール

※１　２４頁
イザヤ書４０-６～８　「人はみな草だ…」
詩編　１０３-１５　「人はその弱い草の如く、その栄えは野の花に等しい」
※２　２５頁　八木重吉の生涯をみて感じました

私の御先祖様

※　２６頁　２７億年前から１９億年にかけて海水中に溶けている鉄イオンと酸素が結合し、酸化鉄となって海底に厚く堆積した。後日それが隆起したのが鉄鉱山だという。

定番刑事モノ

※　３１頁
加害者は被害舎と同じ体験をする必要がある。目には目を歯には歯をのハンムラビ法典はこの世の合理的ルール。
同じ感性を与えられて、となると生まれ変わらなければ分からない。 そして始めからそのような感性を与えられた者は罪を犯さないだろう。

モコ

３３頁※　「オード」ギリシャ語。 崇高な主題を呼びかける形式で歌う格調高い詩歌。

それだけでいい

３５頁　※１　広大な割に漁業資源の乏しい十和田湖に魚業資源をと和井内貞行は妻と共にコイや鱒の養殖を試みたが全て失敗に終る。最後に支笏湖（しこつこ）のマスの養殖に賭ける。全財産を使い果たした三年後の秋、十和田湖の水面から岸に押し寄せるさざ波を見る。産卵の為岸に押し寄せるヒメマス（アイヌ語・カパチェッポ）の群れであった。明治の後半の頃であった。この物語は長い間教科書にでていたが今は忘れられた物語である。

※２　旧約聖書によれば出エジプトの目的地がカナン（現在のイスラエル・パレチスナ）である。モーゼはネボ山から約束の地を感無量で眺めた。モーゼはイスラエルの民一番の功労者であったが、昔、神の意に染まぬことをした罰でカナンの地には入れなかった。エホバの神は厳しい神で情状酌量はしないのだ。

在るか無いか

※３７頁　ジョージ・バークリー　哲学者・聖職者。アイルランド。１６８５～１７５３。

さらに音波が倒木であるか、人の言葉であるか、名曲であるか。人がいなければ全て唯の空気振動に過ぎない。

時は今だけ

※３９頁　歩き方にもそれぞれ指紋のように特徴がある、ということで捜査用に開発されたソフトがあります。

推理ものの受け売りです。

ふふふふ

※　４２頁　芥川龍之介「蜘蛛の糸」

気配

埼玉古墳

※　４４頁

山に入ると日常語は禁じられ、特別な山言葉（マタギ言葉という）を使った。
禁を侵した者は、三十三回も頭に水をかけられた（水垢離）。
オニ・ニワトリ・タコ・サメ・クジラなどの言葉は、山中では絶対禁忌とされた。
山に入っては、絶対に静粛でなければならない。
咳ばらい・あくび・歌・口笛は禁じられ、器具の取り扱いも音をたてないようにした。
足音もたててはいけないし、酒もタバコもだめであった。

私家版　詩画集
「酔生夢詩」
平成２９年４月葉桜満開の頃
製作　手作り出版舎
〒３４９－０１０１　蓮田市黒浜３１１１の２
クロマニオン人末裔　山上（やまのうえの）　村人（むらひと）
戸籍名　大畑　善夫